

アミーゴ将来ビジョンⅡ

第一章 ビジョン策定の背景

1. ビジョンの目的

文化芸術の振興に関して、国においては平成13年12月に文化芸術振興基本法が施行されました。同法の規定に基づき、政府は、文化芸術の振興に関する施策の総合的な推進を図るため、平成14年、19年に続き、平成23年2月に第三次基本方針を策定しました。その中味は、「心豊かな国民生活を実現するとともに、活力ある社会を構築して国力の増進を図るため、文化芸術の振興を国の政策の根幹に据え、今こそ新たな「文化芸術立国」を目指すべきである。」としています。

埼玉県では、平成21年に埼玉県文化芸術振興基本条例が施行され、平成23年4月には「埼玉県文化芸術振興計画」が策定されました。この中で、「文化芸術振興の諸施策を展開し、心豊かで活力ある埼玉を目指す」としています。

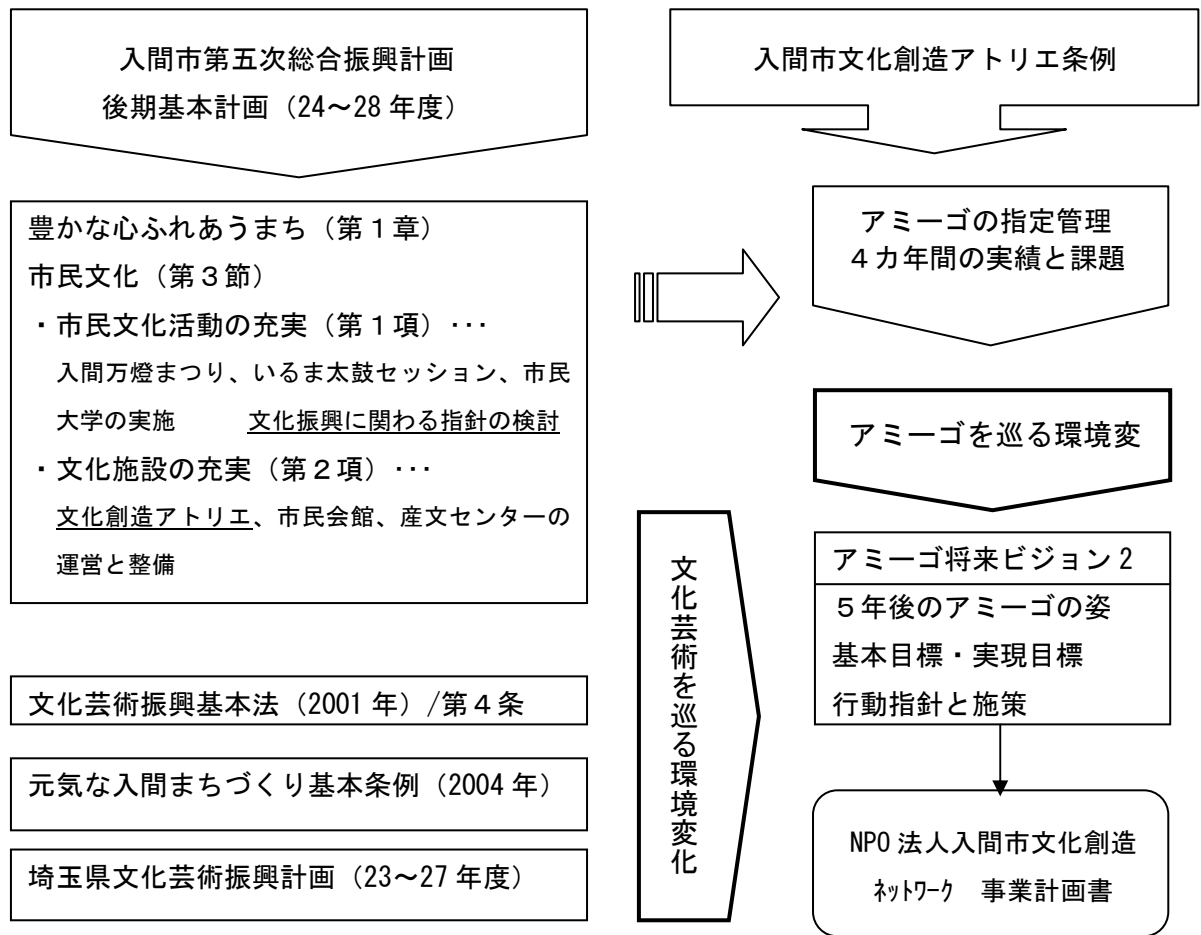
入間市においては、条例などは制定されていませんが、第5次入間市振興計画後期基本計画（平成24～28年）の「市民文化」の中で、「文化のまちづくりを推進するとともに、文化活動の拠点となる施設等の活用を図り、市民文化の振興を図ります。」とし、今後5年間の取り組みの中で、「文化芸術の振興や人材育成、伝統文化の保存・継承、市民文化振興の方向性をより具体的に示した指針を検討します。」と記しています。今後の入間市の文化芸術振興に対する取り組みに期待をしております。

アミーゴは、入間市の市民文化の中心的創造拠点としてオープンし、平成23年2月には開館10周年を迎えました。その間、直営の施設から指定管理施設となるなど大きく変貌いたしました。また、運営に携わるディレクターや市民スタッフもNPO法人として組織化し、「アミーゴ将来ビジョン Version 1」を策定し実践するなど様々な取り組みをしてまいりました。しかしながら、今後もアミーゴが社会に期待され、入間市の市民文化創造に貢献し、全国に誇れる文化創造の場であり続けるためには、継続して時代に対応した取り組みを進め、その価値を高めていくことが必要であります。

そこで、アミーゴ将来ビジョン Version 2を策定し、今後5年のアミーゴのありたい姿を定め継続的にアミーゴの運営の向上を目指し目的とします。

2. ビジョンの位置付け

この将来ビジョンは、今後の入間市のまちづくりの道標として、アミーゴの設置条例、第5次入間市振興計画をはじめ国、県の文化芸術施策を踏まえ、アミーゴの指定管理者であるNPO法人入間市文化創造ネットワークが、アミーゴの文化芸術政策の基本目標を定め、その実現に向けて取り組むべき課題の指針とします。



3. ビジョンの実効性

このビジョンは、指定管理者のNPO法人入間市文化創造ネットワークが策定します。Version 1 同様、「市民参画による自主的な運営」「市民自治の実験場」という立ち位置から策定し、実施にあたり行政担当との話し合いのもと、実効性を担保していきます。

第二章 文化芸術を取り巻く現状

近年の社会経済情勢や文化行政を取り巻く環境は大きく変化し、それに伴って市民生活も変革期を迎えています。こうした時代への的確な対応が求められています。

1. 社会環境の変化

- ① グローバル経済が進展し、経済は長期低迷している中、雇用情勢は最悪の水準となっています。
- ② 将来や社会における安心・安全・信頼に対する危機感が高まっています。また、非正規雇用の拡大などに伴う将来に希望が持てない若者層が増加しています。
- ③ 地球規模での資源・環境問題が高まり、国内では、原発事故による安全性への不安や電力供給不安などもあり、エコ意識が高まっています。

- ④ 市町村合併が大きく進展し、地方分権の機運が進展しています。
- ⑤ 家族について人々の意識が変化し、少子化が進展する一方で、高齢化も急速に進行しています。2020年には国民の4人に1人が、2050年には国民の3人に1人が65歳以上となる時代を迎えようとしています。特に、団塊世代の高齢化に伴う超高齢社会と、その後の人口減少社会が目の前にやってきました。
- ⑥ 携帯電話やインターネットなどICT（情報通信技術）の普及は、ライフスタイルに大きな影響を与えてきています。

2. 文化芸術を取り巻く環境

社会環境の変化は、そのまま文化芸術を取り巻く環境にも変化を及ぼしています。

① ライフスタイルの多様化

価値観・ライフスタイルの多様化は、自由時間の増大や生活水準の向上など社会の成熟とともに、心の豊かさや生きがい、やすらぎなどを求める傾向を生み、余暇活動や文化活動、生涯学習などに対する需要の増大となって現れてきています。

② 少子高齢化

少子・高齢化・人口減少の加速は、地域格差を呼び、劇場や文化施設を利用する人々を減少させその存在意義を失いかけているところもあります。

③ 市民活動の活発化

市民活動や企業の社会貢献活動が活発になり、公共の担い手も多様化してきました。指定管理者制度の導入は、公共施設の運営をNPOなど民間事業者が行うなど、文化施設に大きな変化をもたらしています。

④ 文化予算の圧迫

国や地方公共団体の財政状況の悪化は、そのまま文化芸術分野の予算の削減となり、文化施設の設備の悪化や事業などのソフト面に厳しさを与えています。

⑤ コミュニティの稀薄化

画一的な都市デザインが進展し、都市・地域の個性が喪失し、過疎化が加速しています。同時に、人間関係やコミュニティ等の稀薄化が進んでいます。これらの課題解決に文化芸術のもつ機能性が大きな役割を果たすと期待されています。

3. 地域社会で期待される文化芸術

このように急激に環境が変化してきた現状の中にあって、成熟した社会であるからこそ、文化芸術を必要とする機運はあります。教育、福祉、まちづくり、観光・産業など幅広い領域で、文化芸術振興施策による波及効果が期待できます。文化的存在感を高めることで、地域の活性化を図り、まちの強みを生かした施策が展開できると考えます。

(1) 地域再生の原動力としての文化芸術

地域文化の創造と新しい公共文化芸術力は、特に地域再生において最もその効果を発揮すると考えられます。疲弊の著しい地方社会においては、その再生は緊急課題となっています。個人偏重による“自己責任社会”から人々の絆を大切にする“相互扶助社会”にむけて、社会システムの本質的な転換による地域コミュニティの再生が不可欠なのではない

でしょうか。地域コミュニティ再生の原則は、まず何よりも、そこに暮らす人々の「これからはずっと住み続けたい」という実感にあります。住む人の幸せがあればこそ、地域外の人でもまた「行ってみたい」「移り住んでみたい」と感じるようになります。このような魅力を備えた持続可能な地域社会を実現するために、市民自らが地域創造に取り組む必要があります。その原動力となるのが、そこに暮らす人々の心のよりどころである「地域文化の創造」と考えます。文化への投資は効果的で不可欠な戦略だと考えます。

（２）地域文化の創造と新しい公共

最近、首相の所信表明でも「文化」「市民」「NPO」の言葉が使われています。

（２００９年鳩山首相所信表明）

＜地域の「絆」＞の項では、——かつての地縁・血縁型の地域共同体に戻るのではなく、スポーツや芸術活動、ボランティア活動や地域活動を通じた「誰かが誰かを知っている」といった新しい共同体をつくろうと述べ、また、続く＜新しい公共＞においては、人を支える役割を「官」だけが担うのではなく、教育やまちづくりに関わる一人ひとりが参加し、それを社会全体として応援しよう、市民やNPOの活動を側面から支援していくことが２１世紀の政治の役割だ——と述べています。

文化芸術は、国や地方のアイデンティティ形成、地域の活性化、観光、次世代育成、医療・福祉、創造産業、創造力や革新力の強化など、さまざまな分野で力を発揮します。こうした発言を実施段階に移すために中長期ビジョンを示し、政策を打ち出していくことが必要と思われます。

第三章 公立文化施設の役割

全国公立文化施設協会（以下、公文協）によれば、全国には約２２００の公立文化施設があります（平成２０年）。ピーク時には全国で年間１１２館、１県あたり３館もオープンしていた年もありましたが、最近では、ピーク時の１０分の１しか作られていません。バブルがはじけて公共投資が行われなくなった影響が現れ、新しいホールが作られず、公立ホールの老朽化だけが進んでいます。日本の公立ホールは約４０～５０年で寿命になる施設が多く、古いホールが淘汰され、その結果、公立ホールの数は確実に減ってくると思われれます。

１．公立文化ホールの変遷

日本の公立文化ホールの原点は集会施設にあります。そこに照明やマイクなど演出機能が付加され、集会機能から上演機能へと重心が移ってきました。そして、音楽から演劇など様々な分野の上演が可能となるハード要素が集約され、多目的ホールが生まれてきました。次に多目的であるが故に無目的と非難され、音楽ホール、演劇、バレエなど専門ホールの建設へ展開してきました。

一方で、劇場はものを作る場所、作品を作り公開し普及する場所だという視点が欠けがちでした。特に地方の公立ホールは、都市部で作られたものを上演するために高機能

化し、機能を高めることに重点が置かれ、自ら作品を作るなどの活動は非常に希でした。その後、創造的な活動を行う劇場が登場しはじめました。そういう施設は日本でもまだ少ないですが、世田谷パブリックシアター、彩の国さいたま芸術劇場、新潟市芸術文化会館りゅーとびあ、びわ湖ホール、兵庫県立芸術文化センター、北九州芸術劇場、静岡のSPAC、水戸芸術館、まつもと市民芸術館、可児市文化創造センター、山口情報芸術センター (YCAM) など、創造し発信する施設があります。もちろん、アミーゴもその一つと思っています。また、鑑賞のみの施設や集会施設も公共が担う大きな役割であることには変わりはありません。しかし、公立ホールの発展に伴い、市民の関わり方も変化してきました。最初は鑑賞者として観に行くだけでしたが、最近ではNPO法人を活用した市民による自主運営も、既に全国約50施設で行われています。これまでは行政サービスが公共サービスだと思われていましたが、行政セクターよりも市民セクターの方がより高い公共サービスを提供できる現状があります。その先端を担うのがNPOで、市民セクターが自らの意志で公共を担おうとするのが今の時代の新しい動きです。

<p>公立ホールの歴史：公会堂→多目的化→高機能化→専門化→創造支援型へ 市民の関わり方：受動的な鑑賞者→参加による自己実現→公共の担い手へ</p>
--

入間市では、アミーゴを「市民が公共を担う実験の場」としてオープンし、市民ディレクター、市民館長、NPO団体の受付事務、NOP団体の法人化、そして指定管理者への移行と開設から7年をかけて試行錯誤を経て、今のNPO法人入間市文化創造ネットワークが指定管理者として、アトリエの管理運営をするまでになりました。

2. 公立文化施設の存在意義

公立文化施設は公共施設として、より社会性のある施設であることが求められています。例えば、施設を核とした地域コミュニティの形成、周辺での飲み食いをはじめとする経済効果、にぎわい活性化、ブランディング（まちの文化的イメージ向上）、人口増加、税収アップなどが考えられます。文化で町の名前が認知され浸透していくような発信ができるのは文化施設ならではの強みではないでしょうか。

地域間格差の問題、市町村合併等、今、地域が抱えるさまざまな課題に対処していく観点からも、地域文化振興の意義はますます高まっています。公立文化施設は、こうした地域文化振興の意義を十分に踏まえ、その基盤・拠点をなすものとして、住民・地域のニーズへの確に対応しつつ、その役割、機能を適切に果たさなければならないと考えます。逆に、地域文化振興の成否は、公立文化施設の事業、運営にかかっているといえると思います。

アミーゴでは、社会性を持った文化施設として、こうした役割を認識したうえで、市民文化の創造と文化芸術の振興を図っていく運営を行っていきます。

3. 指定管理者の導入

公立文化施設が指定管理者制度により管理運営が民間に移行するケースが増えてきました。

アミーゴは、平成20年4月より指定管理者制度を導入し、NPO法人入間市文化創造ネットワークが指定を受けました。5年間の指定期間が終わり、改めて平成25年4月から指定管理者として指定を受けました。ここで、当NPO法人がアミーゴの管理運営を担い、ミッションを実現していくために、今一度、指定管理制度について考察します。

指定管理者制度の導入目的は、市民ニーズにこたえる、市民サービスの向上を図る、経費削減の3つあったはずですが、実際はもっぱら経費節減のために導入されているように思われます。特に、劇場・ホールは箱物施設という観点からも経費節減が重要な目的に位置付けられています。本来なら公の施設を行政がミッションを掲げて運営していく直営が一番よいと考えられます。しかし行政のシステムでは異動が多く専門性がない行政職員が施設運営をやらざるを得なくなります。指定管理者制度は、それを補うために専門性の高い人材が関われるように導入したものです。ですから指定管理者にはミッション実現に向けて直営よりも高い専門性が求められていると考えます。

(1) 指定管理者の導入状況

【公募により決定した、646施設の指定管理者の種別】 (平成22年)

【指定管理者の種別】	数	割合
公共的団体単独	303	46.9%
公共的団体と民間事業者の共同体	42	6.5%
公共的団体とNPO法人の共同体	2	0.3%
単独の民間事業者	134	20.8%
複数の民間事業者による共同体	110	17.0%
NPO法人単独	46	7.1%
NPO法人と民間事業者による共同体	8	1.2%
その他	1	0.2%
計	646	100.0%

公文協の調査によると、移行期間が終わった2007年前後から、指定管理者導入に当たって公募の割合が増えています。選定された指定管理者の種別をみても、民間事業者が関わる事例、特にNPO法人単独運営またはNPOと民間事業者の共同体の割合が増えていて、民間で運営力があるところがどんどん台頭しています。

募集の仕方として、管理・運営・事業を切り分けて指定管理者を募集する例もあります。例えば事業を直営または財団に非公募選定ないし委託を行い、運営管理で指定管理者を公募するかたち等があります。

指定期間は第1回目の導入では3～4年が多く、2009年の調査では5～7年の指定期間が主流になりつつあります。劇場・ホールは3年では評価が難しいということだと思

います。こうしたことを踏まえ、2008年4月に指定管理者制度に移行したアミーゴは、当初から指定期間を5年に設定しています。

利用料金制は、2009年の時点で導入している施設が69%。指定管理者で利用料金制を導入する場合に減免規定があると運営に影響を及ぼす懸念があり、最近では、減免規定の範囲を制限する施設が増えています。アミーゴでは、減免規定はありません。行政の利用でも利用料を徴収しています。

(2) 指定管理者制度導入の効果と課題

指定管理者制度導入において、一般的に効果として次の点があげられます。

- 施設の管理に、民間事業者等のノウハウを活用することで、利用者に対するサービスの向上が期待できる。
- 施設の管理に期間を定め、ミッションを明確にすることで、サービスの改善に生かすことができる。
- 指定管理者の選定手続きを公募とすることで、競争原理による管理コストの軽減を図ることができ、行政経費の削減が期待できます。

一方、課題としては次の点が指摘されています。

- 指定期間が有限で短期間であるため、事業の継続性が担保されず、中長期的な人材育成もできない。また、管理者の変更などがあるとノウハウの蓄積を妨げるおそれがある。
- 人件費の抑制などコスト削減の面のみが着目され、施設の運営経費が十分確保されていない場合は、かえって利用者に対するサービスの低下も懸念される。
- 管理者の自立・独自性が強調されすぎると、行政と管理者の意思疎通が少なくなり、協働意識が希薄となる。

アミーゴにおいても、コスト削減、指定期間の5年などリスクは大きく、人材育成、事業の継続については課題と思われます。

第四章 4年間のアミーゴの実績と検証

1. 4年間の推移

資料参照・・・事業報告書

アミーゴ将来ビジョン1は、平成19年度～平成23年度の5ヵ年を期間としましたが、指定管理制度を実施した20～23年度を資料とします。

2. 4年間の成果

アミーゴ将来ビジョンでは「ひと・空間・ときの三つのチカラを成熟させる」ことを目標に掲げています。自己評価として、理事、ディレクターで、この達成度を検証しました。

(1)「ひと」について

スタッフの企画力、事務的能力がついてきた。また、お客様を迎える側として来場者に手作り感を感じてもらっている。利用者からスタッフへ、スタッフからディレクターへと人材の発掘と育成に努めている。

スタッフだけでなく参加者、貸館利用者ともアミーゴを中心にネットワークが発展してきている。アーティストの輪も広がっていると感じます。反面、若い人の参加などは少なく、一定程度の枠からそれ以上に広がりを見せていないとも感じます。

(2)「空間」について

アミーゴの施設はそれぞれ個性的な空間です。それを生かした活用方法が展開されている。また、自主事業で活用方法を考えて、利用者に使い勝手などを紹介している。ただ、パティオやテラスなどまだまだ利用価値が見出せない場所もある。

(3)「とき」について

同様な企画でも進化させた内容で提供している。リピーターである来場者に飽きさせない企画でグレードを上げていく努力を行っている。地域の中の施設をアピールした事業を実施し、地域の住民と距離感が近くなった。

3. アミーゴに対する市民ニーズの変化

アミーゴは稽古場施設と自主事業の展開を大きな役割として設置されました。貸館については、空調がない、ホールに柱が建っている、暗転できないなど使い勝手の悪い特徴もある施設なので、発表の場としての利用は少なかったのですが、最近は発表の場としても希望が多くなっています。

また、月2回という利用制限があっても公民館的に定期的に利用するニーズも多くなっています。そのためか設備の充実に対する要望が多くなっています。

自主事業は、文化芸術の分野で体験型の事業から鑑賞まで幅広く行っています。最近の特徴は、高齢化などを背景に昼間の事業参加率が高くなっています。

これらの検証を踏まえ、文化芸術、文化施設の果たすべき役割を考えると、アミーゴ将来ビジョンⅡを策定していきます。

第五章 アミーゴ将来ビジョンⅡ

文化芸術は、政治や経済等の領域を超え、世代や属性を超えて心に活力を与え、喜びや感動をもたらすものです。同時に、多様性を認め合い、相互に尊重し合える土壌を醸成します。このような文化芸術の特性は、世代間交流、地域活性化、新たなコミュニティの形成などに、大きな役割と機能を発揮します。

文化芸術施策では、こうした文化芸術の特性を認識し、ハード的な都市機能があるだけの「まち」ではなく、個性豊かで、独自の魅力を持った、住みやすい、発展を予感させる「まち」を創造していくことが重要です。そのために、アミーゴが、様々な文化創造活動

を企画実行し、その結果をまた、次の事業の糧として取り組む「実験場」として必要とされていると思います。

ふるさと「入間」に根ざした生活や産業、伝統により育まれた貴重な文化を誇りにし、継承しながら、市民の創意あふれる文化芸術活動を通じて、地域に暮らす人々が互いに助け合う気持ちを育む、活気のあるあるまちを創りたい。政治、経済が変革期にある時代にあつてこそ、地域が育てた固有の文化を誇りに想い、大切にしていくことが必要であると感じます。

アミーゴは、個性ある地域文化を創造し、いるまの魅力として発信します。

ビジョンの基本は、文化芸術による「住んで良かった、これからも住み続けたいと思えるまちづくり」の実現です。そのために重要なことは、「地域文化の創造」、「市民自治による社会的な課題の解決」です。文化は、人々の生きがいを生み出し、社会創造の新たなソフトを開発し、新たな経済と社会システムを生み出す原動力である「創造性」（クリエイティビティ）を高めます。このことを前提に基本目標を定めます。

1. 基本目標

「文化芸術で歓びと希望を感じるまちづくり」
～魅力にあふれる文化創造発信施設を目指して～

2. 実現目標

(1) 賑わいのある施設

事業を企画する人、出演する人、参加する人、それを応援する人、施設を借りて練習、稽古、発表をする人、公園を散歩する人…様々な人がアミーゴに訪れ、活気と賑わいのある地域コミュニティの場を創出する。

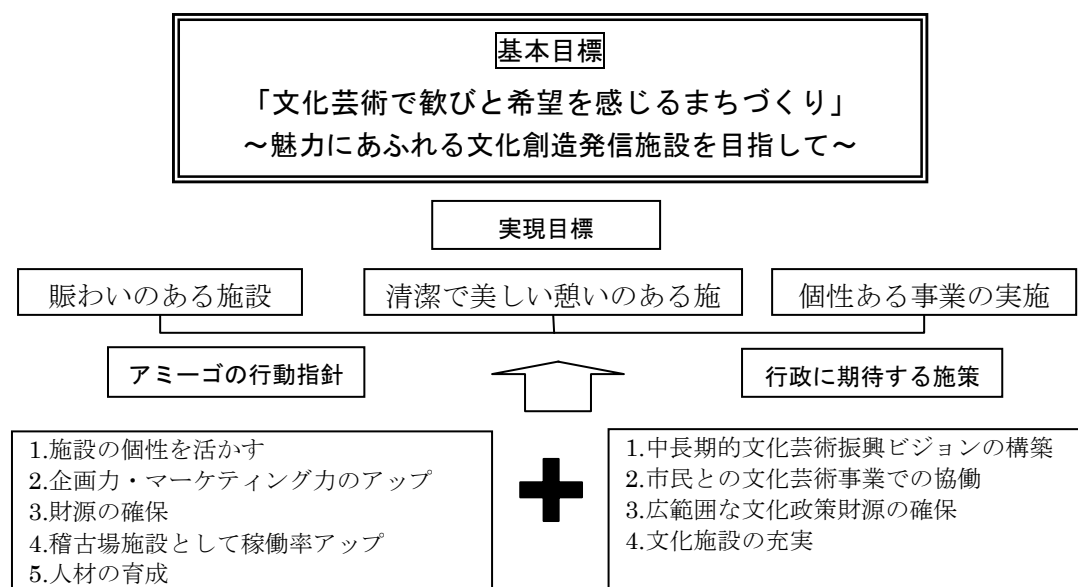
(2) 清潔で美しい憩いのある施設

大正昭和の個性ある建物と空間を大切にし、訪れる人の心を癒し、創造心をかき立てる清潔で美しい施設にする。

(3) 個性ある事業の実施

個性ある空間を生かし、市民ニーズに沿いながら、時代の風をキャッチし先進的で提案型の事業に取り組む。身近な場所で上質な文化芸術に触れる機会を創る。

第六章 将来ビジョンの実現に向けた取組



アミーゴ将来ビジョン I では、

- ① 行政との協働
- ② すべての市民が関わりをもてること
- ③ 様々な政策分野との連携
- ④ 指定管理者を目指した運営の担い手育成（市民運営の強化、市民運営の組織化）
- ⑤ 文化施設と事業の評価への取り組み

をビジョン実現のための取組としました。以下、その成果と経過です。

- ① …市自治文化課の担当と連絡を密に運営に当たってきました。しかしながら、管理運営が指定管理者となったことで、独立性が高くなり、特に文化事業での協働が無くなってきたと感じます。
- ② …様々な層の方をターゲットにした文化創造事業を開催したり、利便性を考えた貸館を行うなどで来館者も多くなったと感じます。一方で、若者の利用度の伸び悩み、まだアミーゴを知らない方が多い等、力不足を感じます。
- ③ …事業を通して、生涯学習分野（博物館・公民館など）、学校教育分野（学校へのアウトリーチ）国際交流協会などと協力連携が充実していたと思います。
- ④ …平成19年2月にアミーゴの運営に携わっていた市民団体の入間市文化創造ネットワークがNPO法人格を取得し、平成20年4月からは指定管理者となりました。
- ⑤ …自己評価の他、評議員会、利用者アンケート、利用者懇談会等により施設管理、文化事業の評価を行ってきました。

これらを今後も継続的に行っていくことを前提に、以下の通りステップアップした行動指針を定めビジョンの実現を進めていきます。

1. 実現へ向けての行動指針

(1) 施設の個性を活かす

大正5年に建設された地域繊維工業の模範工場をルーツとして現在に至るアミーゴは、その後の埼玉県繊維工業試験場を経て、「歴史と人の営みが刻まれた」木造建物をリニューアルしてできた施設です。文化施設であります。この空間には次のような意見があります。

- ・ 景観に魅力がある。
- ・ 建物、空間にオーラがある。
- ・ 公園も併設されている。
- ・ 他にはないムードを持っている。
- ・ 梁や柱が独特な空間である。

このように不思議な趣を持つ空間を大きな個性と捉えて最大限活かし、文化創造の拠点づくりを目指します。しかしながら、この特徴が

- ・ キャパが少ない。
- ・ 設備が不十分である。
- ・ 空調がない。
- ・ 駐車場が狭い。

など、文化施設としては不都合であるという意見もあります。また、何をしているかわからない、外観が目立たないなど、まだまだ認知度が低いことも指摘されています。ハード、ソフト両面でこの施設を活かすことを考えます。

(2) 企画力・マーケティング力を高める

文化芸術分野で造詣のあるディレクター、サブディレクターとスタッフの総力で質を担保し、個性ある事業を企画します。事業選定に当たっては、各文化芸術分野でひとづくり、魅力づくり、芽づくり、ひとづくり事業を様々な視野で行っていきます。

また、文化施設においては、コンサートや公演会などの企画・実施などを通じて、文化芸術を創造する人とそれを享受する人を結びつけ、両者の出会いの中から施設やまちへの愛着や歓びを感じる場とすることが重要です。そのためにはディレクター、スタッフが時代の風を感じ、参加者のニーズの把握と共に変化を読み取る五感を磨くことが必要と考えます。

(3) 財源を確保する

地方財政が厳しい状況下で文化施設も財源の確保は重要な問題です。文化施設がその公共的な意義にふさわしい活動をするために必要な資金を自助努力で捻出することもこれからの施設運営に欠かせない課題だと考えます。公演チケット、貸館利用料など適正で必要な金額は取るとするものです。それでも支えられない場合、公共的に重要な活動であるという部分は、公的な資金や労力で支えようという考え方です。指定管理者制度の中においては、民間活力による営業努力やニーズの創造の努力が財源の確保に繋がると思います。

(4) 稽古場施設として稼働率を高める

アミーゴは、よく公民館や市民会館とどこが違うのかと比較されます。公民館は日常的な練習活動の場としての要素が強く、また、市民会館などは発表又は鑑賞の場としての要素が強いのに対して、アミーゴは、定期的な利用は避け、様々な理由により公民館などで利用できない団体や発表前の集中的な稽古や練習の場として、自由で創造的な文化活動を育み、まちづくりに繋がる文化芸術を担う市民活動の場として位置づけます。こうした目的にマッチした活動団体に利用してもらうために、アミーゴの広報に力を入れていきます。事業に参加する方だけでなく、貸館としての利用者にもアミーゴの認知度を上げて施設の稼働率をアップさせます。

(5) 人材の育成を進める

アミーゴの事業を支えるディレクター・サブディレクター、事業サポーターを育て増やすことを優先的な課題とします。友人、知人、紹介者を通じて、文化芸術に少しでも興味があり、文化施設の運営に参加する気持ちのある方を募っていきます。また、事業への参加者、来館者にも積極的に声掛けをすることで、事業を開催して終わりではなく、多くの協力者を囲い込んでいきたいと考えます。将来のディレクター、サブディレクターの育成を進めます。

また、文化事業のみならず、施設の管理運営の人材も育成していきます。受付業務、会計業務、広報業務、営繕業務などNPOの運営による公共施設だからこそ必要な経営センスも磨くことが重要であると考えます。

2. 行政に期待する施策

アミーゴが入間市の文化創造に貢献しその価値を高めていくためには、ただ、運営主体が頑張っても限界があります。行政の協力が重要と考えます。そのために以下の課題に対して一緒に考えて実現に向けた対応を期待します。

(1) 中長期的文化芸術振興ビジョンの構築

第5次入間市振興計画後期基本計画に「文化芸術の振興や人材育成、伝統文化の保存・継承、市民文化振興の方向性をより具体的に示した指針を検討します。」とあります。早期に入間市の文化芸術振興に対する方向性を明確にすることを期待します。それは、公立文化施設の存在意義は何か、という問いの答えでもあります。文化芸術振興を担うべき「人」と「ハコ」の役割を明確にして、事業に反映すべく施策を練っていくことが必要ではないでしょうか。

(2) 市民との文化芸術事業での協働

アミーゴで言えば、指定管理者制度の導入により管理者の独立性が高くなり、行政との事業協働の関係が希薄となったと感じます。行政と共に文化芸術事業を考え、目的意識を共有し、高めることによりビジョンや市施策の実現を目指したいと思います。新しい事業を共に考え、実施する作業を試みたらどうでしょう。財源は、指定管理料やNPOの財源でもよいと思います。様々な切り口を一緒に模索したいと思います。

(3) 広範囲な文化政策財源の確保

文化芸術振興の推進には当然財源が必要です。しかしながら、昨今の地方公共団体の財政状況は厳しいものがあります。しかし、諦めては市が標榜する「元気な入間」のまちづくりは実現できません。助成金の確保、施設利用料金の改訂、観光等活用による収入増などあらゆる分野での収入を確保する思索が必要と考えます。

(4) 文化施設の充実

入間市の文化施設の老朽化は著しいと思います。どんな建物でも、20年もすると大きなメンテナンスが必要となってきます。すでに、30～40年も経っている施設もあります。中長期的なビジョンの中で、今後どうするのか、入間市には、どういった形態の文化施設が必要なのか、キャパシティはどのくらいが適当か、など真剣に考える時期であると思います。文化施設といっても、学校施設、博物館、公民館など様々な施設との共生の中で考えていくことも必要です。アミーゴが実験場として蓄えた資料も活用出来たらと思います。